

<英国栈橋調査の余録> かつての温泉リゾート地・バース (Bath)

2013 年調査 (執筆担当 八尋明彦)



当時を思い起こさせるローマ浴場

バースは、2013 年の英国栈橋調査において訪れた都市である。イングランド西部のバース・アンド・ノース・イースト・サマーセット自治区にある。ロンドン・パディントン駅から列車で約 1 時間半。湧出温度 45 度の 3 つの源泉から供給される温泉地である。1978 年に温泉が閉鎖されて以来、温泉施設跡を見ることが出来なかったが、2006 年に市内に総合スパ施設が作られ、観光客に再び開放された*。2 世紀頃のローマ支配の頃から温泉街として発展したと言われている。18 世紀のジョージ王朝時代は、ロンドンの貴族や富裕層の保養地として再開発された。市内にはジョージ王朝様式の建造物が数多く残っており、1987 年に世界遺産に登録されている。バース寺院や世界で最も美しい集合住宅と言われているロイヤル・クレッセントに代表される、この地域産のはちみつ色の石材でできた建築物は、シンプルであるが上品である。さらに土木構造物としても、エイボン川に架かるブルトニー橋とその前に施された堰が作り出す河川景観は、機能美としての美しさを醸し出している。このように当時社会インフラとして建造された構造物が、後世においても文化資産として地域に根付いている。当時の設計思想に感服である。



今も湧き出る温泉



バース寺院



ブルトニー橋と前面の堰

* Wikipedia より

< 完 >



集合住宅ロイヤル・クレッセント